

ネットスーパーで注文した商品を受け取る託児所の
代業者(左)

「長崎市幸町、託児所「さばちゃん保育園」



うは少ない方。大雨、雪などの悪天候になると注文は倍増します」。ネット部門の専属従業員は3人。注文が多い日には、応援組がないと回らないこともある。

注文された商品を見ると、総菜やカット野菜などが目立つ。時間に余裕がない人からの注文だろう。大津修平店長(53)は「夕方や夜になると売り切れてしまう商品がネットでは確保できる。これを評価していたたく声もある」と手応えを感じているようだ。

松尾さんは注文票を手に素早く店舗フロアへ。手際よく商品を冷蔵ボックスに詰め込み、昼すぎにヤマト運輸に「パトタッチ」。

ほっと一息ついた。
ネットスーパーの利用者は個人だけではない。給食

子育て世代に需要も

丸高商事(鎌倉市)が県内で初めて導入した「ネットスーパー」には現在、2千人を超える会員が登録。子育てや共働き世代の30、40歳代を中心に需要は伸びているという。県中部に位置するまるたか生鮮市場池田店(大村市)を拠点に、離島を除く県内のほぼ全域に即日配達している。

7月10日午前9時、ネットスーパー専属従業員の松尾恵さん(34)が出社。パソコンを開くと、お得意さまから既に9件の注文が入っていた。注文は1日平均20件程度。松尾さんは「きよ

ネットスーパー

を提供する小規模事業所からの需要もある。午後2時半、長崎市の託児所「さばちゃん浜町店」(池田美保子店長)に商品が到着した。池田店長(43)は「保育で手が離せない中、頼んでその日、その時間に届けてくれるので便利。お礼の手紙も添えられ、地場ならではの温かみを感じる」と評価する。

丸高商事がネットスーパーに参入して1年半。当初の目標「会員3千人」に向け、「ネット」が苦手な高齢者にも利用できる環境をいかに整えるかが課題となっている。